

自動車用材料シンポジウムー高強度化の限界を探るー

地球温暖化防止のためのCO₂排出量の抑制や衝突安全性向上のため、自動車用鉄鋼材料の高強度化、軽量化は益々重要な問題となってきた。しかし高強度化を進めるほど鉄鋼材料の製造上、使用上に多くの課題が発生する。これらの課題は自動車会社、鉄鋼会社がそれぞれのニーズ、シーズを交換し、親密な討議を重ねることによって解決策が見出されよう。今回、鉄鋼協会と自動車技術会が共同で自動車用鉄鋼材料全般について「高強度化の限界を探る」というテーマの下に、一日シンポジウムを行うことになった。会員の方々の出来るだけ多くの参加と討論を期待する。

1. 日 時：平成5年10月18日(月) 9:30~16:00
2. 場 所：名古屋工業大学
(日本鉄鋼協会第126回秋季講演大会会場)
3. 共 催：(社)日本鉄鋼協会(幹事学会)、(社)自動車技術会
(企画)：自動車用材料共同調査研究会
4. プログラム：開会挨拶
境界領域委員会委員長：岸 輝雄(東 大)
午前の部 座長：武智 弘(福岡工大)
◎ 基調講演 9:30~10:20
「最近の自動車を取り巻く環境と自動車用材料」
城井幸保(三菱自工)
(1) 講演 10:20~10:50
「ボディー・シャーシ用鉄鋼材料の現状と課題」
佐野 実(富士重工)
(2) 講演 10:50~11:15
「自動車用高強度熱延鋼板」
木下正行(N K K)
(3) 講演 11:15~11:40
「自動車用高強度冷延および電気めっき鋼板」
小山一夫(新 日 鐵)
(4) 講演 11:40~12:00
「自動車用高強度溶融垂鉛めっき鋼板」
坂田 敬(川 鉄)
(5) パネルディスカッション 12:00~12:30
午後の部 座長：遠藤孝雄(横 国 大)
(1) 講演 13:30~14:00
「エンジン・駆動系鉄鋼材料の現状と課題」
萩原好敏(本田技研)
(2) 講演 14:00~14:25
「自動車用高強度棒鋼」
中里福和(住 金)
(3) 講演 14:25~14:50
「自動車用高強度線材」
芦田真三(神 鋼)
(4) 講演 14:50~15:10
「自動車用高強度鋼管」 山本三幸(住 金)
(5) 講演 15:10~15:30
「自動車用高温高強度ステンレス鋼」
植松美博(日 新)
(6) パネルディスカッションとまとめ 15:30~16:00
5. 問い合わせ先：
(社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 上村一郎または植田紀代子
TEL(03)3279-6021 FAX(03)3245-1355

欧文会誌ISIJ International 投稿規定・執筆要領(和文版)

この度、欧文会誌分科会でISIJ Internationalの投稿規程和文版を作成いたしました。ISIJ Internationalは、会員、非会員を問わず、どなたでも投稿できる論文集で、世界60か国以上に配布されています。論文発表の有効な場として、ISIJ Internationalへの投稿をお勧めします。

投稿規定

1. 投稿資格
本会会員、非会員を問わず、広く国内外の著者からの投稿を受理する。
2. 投稿原稿の内容
 - 1) 鉄鋼材料を中心に、その他各種材料の生産プロセス、性質、特性評価、応用に関する学術ならびに技術の発展に寄与するもの。
 - 2) 他の学協会誌などの刊行物に発表されたことのないもの、あるいは本誌掲載以前に発表される恐れのないものに限り、ただし、「鉄と鋼」に掲載されてから2年を経過してないもの、および本会の研究会等の報告書に掲載されたものの英訳原稿は投稿できる。
 - 3) 全ての原稿は英文で書かれたものでなければならない。統一性があれば、スペリングやタイトルは英語でも米語でも構わない。
3. 原稿の種類
原稿は以下の4種類とする。原稿の種類は審査の結果、変更を要する場合がある。
 - (1) Regular Article (刷り上がり10ページ以内)
学術ないし技術上の未発表の知見や成果を記述し、その内容の客観性を論証したもの。
 - (2) Review
一つのテーマについて、既発表の研究や資料を総合的に集録・紹介し、読者に有益な情報を与えるもので、欧文会誌分科会からの依頼を原則とする。ただし、著者からの申し込みが分科会で認められれば投稿できる。
 - (3) Communication (刷り上がり3ページ以内)
速報価値のある発見や成果を要領よくまとめたもの。審査および掲載に際し優先性が与えられる。
 - (4) Note (刷り上がり3ページ以内)